

2022 年度 第4回須坂市小中学校適正規模等審議会 会議録

○日時 2022 年 11 月 24 日（木）15:00～17:00

○場所 旧上高井郡役所 2 階多目的ホール 1

○出席者

【審議会委員】

勝山幸則会長、本多健一委員、有地康晃委員、新野健委員、新崎佳子委員
丸山貴子委員、牧富士男委員、古平幸正委員、戸松清一郎委員、島田浩幸委員
佐藤富美子委員、中沢裕子委員、垂澤優樹委員、宮川浩委員、北森ちか委員
清水貴夫委員

【事務局】

小林教育長、清水教育次長、中村学校教育課長、安川係長、後藤主任指導主事
松木指導主事、北村指導主事

1 開 会

2 あいさつ

勝山会長：

●本日は、過日行われた市民アンケートの結果を踏まえて、それぞれの立場からの意見を
いただきたい。

3 議 事

(1)市民アンケート結果について

安川係長：

●調査対象として市内に住む 18 歳以上の 800 人に郵送で調査票を配布。回収数 336 枚、回
収率 42%

●回答者の年齢について 60 歳以上が最も多く 45.8%、次いで 40 代（19%）、3 番目に 50
代（17.9%）。

●同居する家族の質問では未就学児から高校生までのいずれもの方とも同居していない回
答者の割合が 62%と多い。

●市民アンケートとは別に、保護者向けアンケートを実施。1 月の審議会にて結果報告予
定。

●小学校の学級数については標準規模の「2～3 学級がよい」（75%）との回答がもっと
も多く、2 番目が「児童数が著しく少ない場合は複式学級でもよい」（13%）となってい
る。「4 学級以上がよい」と「2～3 学級がよい」を合わせると 8 割を超え、1 学年あたり
2 学級以上を望む回答が多い。

●中学校の学級数については、標準規模の「4～6 学級がよい」（64%）との回答がもっと
も多く、2 番目が「3 学級以下がよい」（25%）となっている。

●通学時間についてでは、小学校でも中学校でも「30 分以内」の回答が 6 割を超えもっ
とも多い。

●学校で取り組む課題は「子どもの安全・安心の確保」(232)がもっとも多く、2番目が「学力の向上」(206)、3番目が「いじめ対策の充実」(179)。

●子どもたちに育みたい能力は「他者を思いやることができる心」(192)がもっとも多く、2番目が「物事の善悪を判断できる力」(149)、3番目が「自分の思いや考えを主張できる表現力」(148)

●少子化の中で学校数(配置)については「今の学校数(配置)が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」(49%)がもっとも多く、2番目の「須坂市全体の学校を対象として、計画的に学校再編を進めるべき」(27%)と合わせると、学校再編に肯定的な回答が7割を超える。

●一方で「今後、さらに児童生徒数が減少しても、現在の学校数(配置)が望ましい」との回答も21%で、この回答理由として「学校は地域の活動拠点なので」(35%)とのもっとも多く、2番目が「今の教育環境を大切にしたい」(26%)。

●その他意見では、学校再編により学校が遠くなり、通学時間が長くなることを心配する意見が複数あった。

(2) 市民アンケート結果について意見交換

委員A：

●無作為に選ばれた年齢層もアンケート結果と同じ比率になるのか。

安川係長：

●須坂市の年齢構成比率に合わせて配布した。結果については60代以上が多いが、須坂市全体の構成的にも60代が多い。10代20代の回収率が低く、60代以上が高かったこともある。

委員B：

●現時点の児童生徒アンケート等の回答率は。

安川係長：

●小学校5・6年生で84.2%、中学校2・3年生で75.5%、保護者45.7%、教職員96.8%
委員B：

●小学校は標準規模の「2～3学級がよい」が多数を占め、中学校は4～6学級がよいとの回答が多い。

●回答した理由に着目すると「クラス替えが可能で人間関係が広がる」「様々な友だちと触れ合える」など。回答者の年齢層が高めということで、昔のイメージが先行しているのではないかと。

●1学級のあたりの人数を尋ねた質問では「30人以下が適当」が多く、小中学校で共通している。理由として「一人ひとりの児童に応じた丁寧な指導を受けることができる」が多い。この辺りは、私たちが2年間議論してきた個別最適な学びや多様性に配慮した学びなど、我々の思いとアンケート回答者の思いが共通していると感じた。

委員C：

●小学校も中学校も学級数は「1 学級だけでは問題」という結果がはっきり出た。学級は、複数あった方がいい。それは中学校に行くほど増え、高校になれば更に大きな集団を望んでいると思う。

●これはアンケートに答えた方々が昔のイメージ、自分が育ったイメージを先行させて答えている訳ではなく、人間の本質に基づいた、成長に応じた集団の大きさが必要ということが数字に出たと思う。

●これは知的な好奇心の成長と通じている。人間は成長するにつれて、より大きな集団や多様な価値観の人と出会いたいと思う。私たちが小さい頃と今の子どもも同じ。それを感じていて、数字に出ていると思う。

●適正規模はこういったエビデンスに基づいて考えていくべき。

勝山会長：

●アンケート結果からは「複数の学級構成」、また委員からは「年代に応じた適正な規模」という意見があった。

●学級数を尋ねた質問では、その選んだ理由として小学校の場合「友だちと触れ合い」「クラス替えによる人間関係の広がり」。中学校の場合「クラス替えによる人間関係の広がり」など。

●1 学級の児童生徒数がある程度の規模が欲しい理由として、小学校は「集団生活作り」「クラスとしての一体感」を求める回答が多い。最多の回答は、小中学校ともに「丁寧な指導」。

●過大な学級を求めず、人間関係やふれ合いを重視する回答結果。

委員D：

●私の地区は小中学生が少ない東地区。アンケート結果を見ると1 クラス 30 人が良いという結果だが、この先増える要素がなく今を維持するか、ますます減るか、2 つに1 つの現状。

●今、区長やっているが、保護者の方と話すことはほとんどなく、60 歳以上の方との話がほとんど。自分の周りの 60 歳以上の方は、今の学校を残して欲しいと思っている。

●結果を見ると小学校で2～3 クラス、中学校で4～5 クラスの回答が多いが、私の地域の学校は1 クラスが10～15 人なので、なかなかイメージできない。数字より地域のことを考えてしまう。

委員E：

●私もアンケート結果と似た考え方を持っている。学級の人数については、「丁寧な指導」を望む回答が多数。それにはより人数が少ない方が良くと思うが、学級数の関係では「友だちとの触れ合い」が重要という考え方もあるので、総体的に見て「30 人以下」の回答が結果として多かったのではないか。

●現状を見ると再編は仕方ないのかなと思う。再編は、子どもたちの事を考えて再編して

ほしい。

委員 F :

- 私も 60 歳以上の回答者の立場になる。自分たちが小中学生の頃の人数、クラス数が反映されていると思う。
- 今は子どもが少なくなり、この人数、学級数を揃えるには統合という形になると思う。
- 統合した場通学時間など 30 分以内で考えると、安全性もあるが自転車通学なども考える必要がある。
- 児童生徒や保護者のアンケート結果も踏まえて、これからを考えていければと思う。

委員 G :

- アンケートの結果の数字には出てないが、いろいろな方の意見を拝見すると、個人として自立していくことと、社会の一員としての公益性・公共性を身につけた子どもが育っていけばいいという意見がある。
- 通学について、スクールバスについて意見があったが、スクールバスが精神的ストレスになる可能性もある。

委員 H :

- 子どもの性格もそれぞれ違うのでアンケートの答えで一律にどうこうの言うのは難しい。
- 我々 PTA としても困るのは、アンケート結果でも 30 代、40 代の回答割合が低く、興味がない無のような結果になってしまうこと。この世代に学校再編を理解してもらう場を作っていってもらえると PTA としても有難い。

委員 I :

- 保護者向けのアンケートに自分でも答えたが、自分の経験、置かれている環境を前提に答えている人が多いのではと思う。
- 子供が少なくなっている中、1 学年 3 学級というのは難しいと思うが、自分の経験で回答している方が多いと感じた。

委員 J :

- 今回市民アンケートの結果では 60 歳代以上が多い結果だが、既に仕事退職された方で時間があるから多いのではないか。
- 20、30 代が少ないのは働く世代で、忙しく期限内に返せなかったのではないか。その後の保護者向けアンケートに答えている方が多いと思う。
- 昔よりは、同居世帯が少ない中での 60 代以上の回答で今の子どもたちの状況が分からないまま、自分の時代の希望をそのまま回答しているのではないか。

●私も審議会に参加するようになって、子どもの人数によって先生の配分や学級数が決まることを初めて知った。年配の方々はそれを知らずに答えているが、知った上でのアンケートしてみても個人的に思った。

委員K：

●60 歳以上が多いのはとても良いこと。子育てを終えた方がどう思っているかが分かる。この結果を 60 歳以上の方の結果として見て、活用してもよい。

●このアンケート結果で大切なことは、皆さん安心・安全な学校づくりを大切にしたいと思っている。

●子育て世帯には、現状について丁寧に説明する機会が必要だと感じた。

委員L：

●学級数を尋ねた質問で、その理由を見ると「人間関係を広げたい」との回答が多いことから、コミュニケーション力を大事にしていると思った。

●「一人ひとりに丁寧な指導」「多様性の受け入れ」「個を伸ばしてほしい」というように考えていると感じた。

●「様々な役割を経験できる」との回答は、学校で社会性を付けて欲しいと考えているのではないかな。

●昨年の学びのあり方検討会議で提言書が作成されたが、それを踏まえてこのアンケートの中身を読み取り、適正規模を考えることが大事。

●地域や自分たちではなく、子どもたちの事を考えて議論しようと言う意見があり嬉しく感じた。

会長：

●今の委員の意見は、学びの体系をどう作っていくかを根っこに置かないと上手くいかない。とても大事なことだと思う。

委員M：

●アンケートでは、自治会を尋ねる質問があるが、自分の地区の小中学校区を意識した回答もあるのではと思う。地域によって、学校規模によっても受止めているものが少しずつ異なるのかなと思った。

●これから子どもたちにどういう生き方、能力を付けていくのかをベースに、学級数や人数を検討する事が必要だと感じた。

●他の委員も言っていたが、成長と共に大きな集団を求めていくと、年代によって規模も違うと感じた。

●東地区で抑えてもらいたいのは、何クラス数がよいかということもあるが、先々に行った時に、学級数に応じての専門性のある教員の配置ができなくなる、という事を避けなければならない。子ども達の学びに不利益が生じないようにしなければいけない。

委員N：

- 本校では、複式学級が目の前に迫っている中、学級数を尋ねた質問の理由にある「人間関係の広がり」を求める声を受け止めなければならない。
- 連学年や3連学年の活動をする中で、子どもたちに「どうしてこういう活動をする必要があると思いますか」と尋ねたところ、答えは「人数が多いといろいろな活動ができる」「いろいろな意見が聞ける」そんな声があがった。
- 子ども達自身も、小さな規模ではなく、ある程度の人数の中での活動の必要性について感じている部分がある。

委員O：

- 子ども中心で考えた時に「子ども達に育みたい能力について」を主観に置いて考えたが、「他者を思いやる事ができる心」というものを皆が求めているにも関わらず、何かあったら誰が責任をとるかを気にして自己を守る現実がある。
- 適正規模は何かと考えた時に、須坂市の子ども達のためにどうしていくかを、大人が今一度真剣に考えなくてはならない。
- 人数が少ない学校だけで考えるのではなく、他校との交流など、多くの子ども達とふれあう機会をつくる事できっかけが増えるのではと思った。
- この地区・この場所・この人数だけで考えない。大人達が子ども達のために、いかに色々なことをしてあげられるか。そうした大人の姿を子ども達もしっかり見ている。

委員P：

- 自分や従業員にも子育て中の方がいるが、学級数や人数よりは、学童や幼児保育を充実させてほしいと思っている親が多いのではないかな。その現れがアンケート結果の子育て世帯が少ない理由なのではないかな。
- 学校再編に肯定的と考えているが7割を超える。21%は否定的であるが、その背景には学校が無くなると地域的に寂しくなるからではないかな。
- 個人的な意見として、学校の跡地を有効活用したら市民にも解りやすいのでは。他市では閉鎖になった学校跡地を民間企業が利用している例もある。跡地を企業に利用してもらえば地域の活性化になるのでは。

委員C：

- 「子ども達に育みたい能力」の問いで「基本的な知識や技能」は授業で学び、「学びを人生や社会に活かそうとする力」「自分の思いや考えを主張できる力」「他者を思いやることができる心」ほか4項目は、集団の中でしか学べないのが大きな特徴で、だから学校が必要。
- 基本的な知識や理論は授業で先生から学ぶ。それ以外、人生の中で役に立つことは授業

以外で学んでいる。それは、クラスの中の人間関係、部活動、生徒会活動、外国の方との交流・大人たちとの交流、他校生徒との交流。そういう学校というものに所属しているからこそできる経験がたくさん学べる。

●学校は社会の縮図、その中でいろいろな事を学んで社会に出ていく。そうなる学校が必要でどんな学校が必要か、単なる集団ではなく多様性が担保された集団というように、定義する必要がある。その定義された集団の中で始めて「学びを人生や社会に活かそうとする力」などが身につく。

●アンケート自由記載で「教員の働き方改革、何よりも優先すべきことだと思う」とある。保護者は自分の子どもが楽しかった、辛いことがあっても頑張って乗り越えた。学校が、そんなことが出来るような安心・安全が担保された場であって欲しいと思っているが、先生があまりにも忙しい。子どもたちは学力の補習や親や友達にも話せない、いろいろな悩みを抱えているが、それに対して向き合って話を聞く時間がない。先生たちの働き方改革は急務で、それをやることで安心・安全な学びの場を準備する事ができると思う。

会長：

●何をするための適正規模なのかを我々がしっかり考えながらやっていかなければいけない。ある程度の人数が確保できる努力ができるかどうか、できない場合はどうすればいいか。

●学校を中心としたコミュニティというものが仮になくなったらどうなるのか。そういう地域の概念をもっと広く我々は取らなければならないか。PTA も単一の PTA で入っているが、関連性を持って考えて行く必要がある。

●以上のことを含めながら、須坂市の子どもたちにとって良いと思える提言を作っていくことが大事。

4 次回内容について

・第5回審議会 1月19日（木）15～17時 旧上高井郡役所

5 その他

・第1回シンポジウム 11月27日（日）14～15時30分 旧上高井郡役所

6 閉会